

柞原八幡宮由緒略記

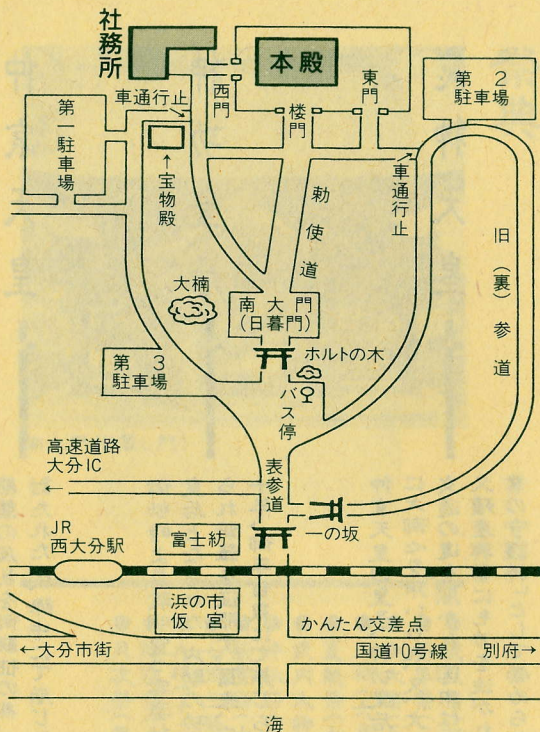
ユスハラ



豊後の宮(旧国幣小社)

大分市大字八幡九八七番地鎮座

柞原八幡宮参拝順路



ユスハラ 柞原八幡宮

大分市上八幡三組
〒870-0808 TEL 〇九七-五三四-〇〇六五
FAX 〇九七-五三六-二四七五
<http://www.oita-yusuhara.com>

《参拝順路》

- ① 国道より4km。
- ② 柞原バス停より左に進めば駐車場有り。
- ③ 高速道路大分ICより車で約15分。

参拝順路

祈願祭

- JR日豊本線「大分駅」下車・大分交通バス「柞原行」乗車(約三十五分)・終点下車・徒歩(参道)約五分。
- 高速道路大分ICより約十五分
- 自動車なら市内中央より約二十分。
- 駐車場(無料)・本殿まで徒歩二分。
- 各種祈願祭を毎日(八時→十六時三十分)受け付けております。
- 地鎮祭等各種出張祭典も受け付け致しております。
- 時間外の申込みは社務所まで御連絡下さい。

武内大神渡御祭

(九月一日↓七日)

仲秋祭(九月十四日↓九月二十日)

申殿内西にまつる武内大神が、その本社・賀来神社まで御神幸になられる。別名・賀来の市と称され、九月一日と七日に神事が斎行される。別名(浜の市)と称され、十四日に氏子の奏する渡り拍子の中を、神輿三基が御旅所の仮殿に渡御する。中日には、放生会の神事・花火大会があり、期間中、神前では神楽・等が奉納され、盛大な「市」が立ち終日賑わう。起原は、大友能直が豊後国守護となった鎌倉時代初期に始まり、大友氏滅亡後一時中断したが、寛永十三年(六三六)、府内藩主・日根野吉明が再興し、現在に至っている。名物「しきし餅」は有名。

天然記念物



大楠

大楠(樹齢三千年以上)は境内参道西側(南大門の西)にそびえ、樹高三〇メートル・根回りは三十四メートル・地上二メートルの幹回り十九メートルもあり、幹の下部は空洞になっており大人が十数人も入ることが出来る。我々国でも有数の巨木であり、大正十一年三月に国の指定を受ける。平成元年、環境庁巨木調査にて全国第七位。

祭典

境内(約二万五千坪)



ホルトの木

境内参道途中には、大友氏の時代にホルトガール人が寄せたと伝えられる「ホルトの木」が大枝を広げている(根回り約六・四メートル)。又、御殿廻廊よりの春の新緑、秋の紅葉は見事である。

社 号

柞原八幡宮(ユスハラハチマングウ)・大正五年(一九一六)国幣小社に昇格。

創 建

天長四年(八二七)延暦寺の名僧・金亀和尚が宇佐神宮の參籠にて神告を蒙り、柞原山に勧請したのを、当宮の創建の起源とする。

御 祭 神

東御前・仲哀天皇「葦中日子命(アヲシナカツヒコノミコト)」「中御前・応神天皇「譽田別命(ホノダワケノミコト)」「西御前・神功皇后「息長帯比女命(オキナガタラシヒメノミコト)」

仲 哀 天 皇

熊襲の反乱を御親征の為、船を率いて海路筑紫に幸し、これを討たれたが、陣中にて崩じ給うた。

神 功 皇 后

御幼時より聡明宜つ容姿壮麗であられた。仲哀天皇の二年に皇后となられた。内助の功多く、天皇の没後、男装して海を渡られ新羅を征服す。爾来、応神天皇を奉じ政をとり給う事七十年、御年百歳にて崩じられた。

応 神 天 皇

仲哀天皇の皇子、神功皇后が御母。天皇は深く国内外の政治に大御心を用いられ、又、文学にも力をそそがれ、大船を造られ交通の道を開かれ、国内は勿論、韓土との交通も頻繁となる。又殖産興業にも力を注がれた。故に「厄除・開運の神、殖産興業の守護神」として崇められている。

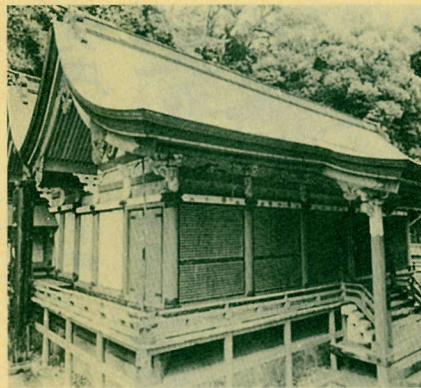
皇室の御崇敬



楼門

当宮は承和三年(八三六)、右大臣・清原夏野が勅を奉じて国司・大江宇久に社殿を造営せしめ、爾来、国司の厚い崇敬を受け、一方、皇室も厚く尊崇せられた。又、嘉承三年(一一〇八)には、勅使の参向があり、敷地の四至を定め税を免ぜられた。仁平三年(一一五三)には、鳥羽法皇が六十歳の御賀に御祈願を修せられ、神領を定められた。元暦元年(一一八四)には、源範頼が平氏の追討を祈願したのをはじめ、源頼朝・領主(大友・竹中・日根野)・武家の崇敬も非常に厚く、近世には、社家二百余・坊舎三十を数えた。

社殿



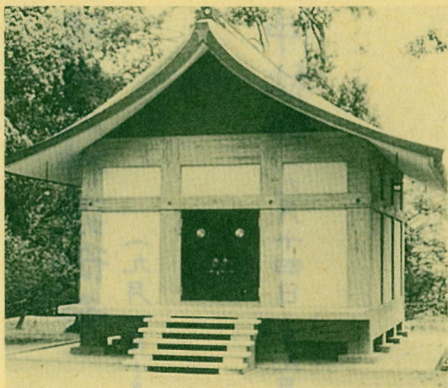
本殿

祭典



南大門(日暮し門)

社宝



宝物殿

御本殿は嘉永年間(一八四八〜一八五四)に再建の壮麗な八幡造りであり、申殿・拜殿・廻廊・楼門が続く。本殿の東西には東宝殿・西宝殿が建ち、東宝殿の東には権殿が建つ。本殿の南には宝物殿が建ち、多くの宝物が収められている。又、参道の途中には南大門が建つ。これは別名「日暮し門」と呼ばれる華麗なもので軒の正面には雄竜・雌竜(裏面)が、そして随所に多彩な彫刻が施され、元和九年(一六二三)の再建・明治三年(一八七〇)の修善になる。

- 歳旦祭(月一日)
- 祈年祭(二月十七日)
- 例大祭(三月十五日)
- 大祓(六月三十日)
- 夏越祭(七月三十一日)
- 武内大神渡御祭(九月一日・七日)
- 仲秋祭(九月十四日↓二十日)
- 新嘗祭(十一月二十三日)
- 七五三祭(十一月中)
- 大祓(十二月三十一日)
- 除夜祭(十二月三十一日)
- 月次祭(毎月一日)

国指定重要文化財(六点)

太刀「国宗」・「源国」・「薙刀直し刀」銅造
 仏像(白鳳時代)・甲冑・白檀塗浅葱系威腹
 巻(ひやくだんぬり・あさぎいとおどし
 ・はらまぎ)・柞原八幡宮文書。

県指定重要文化財(二十一点)

「八幡宇佐宮御託宣集(裏図付)」・「木造不動明王立像(鎌倉時代)」・「木造女神坐像(平安中期)」・「木造祖師坐像(平安中期)」・「山水時絵縁起絵巻(納箱一合)」・「紙本着色由原八幡宮縁起絵巻(附極書一通)」・「紺紙金泥増宅阿含経(十紙)」・「板彫不動明王立像(一軀)」・「板彫多聞天立像(一軀)」・「木造菩薩形坐像(一軀)」・「柞原八幡宮絵図・本殿(八幡造)・東宝殿・西宝殿・申殿・楼門及び拜殿・廻廊・南大門(日暮し門)・西大門・宝蔵・八王子社」
 ・その他多数の宝物を所蔵。